

2009年度の社会連携センタートピックス一覧

大学を花でいっぱい - 花植え活動

2009.7.16

6月12日（金）梅雨の合間の晴れ間、本学正面前の庭にひとたかりができました。集まったのは、ボランティアグループ「花・はな」の皆さん、隣接した調布特別支援学校の生徒さんと教職員、そして本学の学生と教職員、総勢65人ほどです。

学長挨拶、そして長友調布市長の挨拶のあと、花・はなリーダーの原さんから「苗木の根は手でほぐしてから埋めるようにしましょう」との説明がありました。

慣れた手つきの人、おそるおそるほぐす人、皆さんの協力によって、15分もたたないうちに、日々草、サルビア、マリーゴールド、ポーチュラカの苗を植え終わりました。

本学の校門は休日でも開いています。少しでも多くのみなさんの目に花が映えれば・・・参加者みんなの願いです。



第2回キャンパス美化活動を実施

2009.7.16

梅雨明けの7月14日（火）の午後4時20分から1時間、学友会執行委員会（昼間・夜間主）、生協学生委員会、社会連携センターの主催で第2回キャンパス美化活動「くりーんあっぷ大作戦」を実施しました。7月19日に行われるオープンキャンパスを前にしての協働活動として実施したものです。

当日は、学生と職員とで9つの合同チームを作り、キャンパス内外でゴミ拾いや落ち葉掃きなどを行いました。

実施に当たっては、学友会執行委員会（昼間・夜間主）、生協学生委員会の担当委員、および社会連携センターの典委員が中心になって実施計画を作成しました。

【活動の概要】

時間	7月14日（火） 16:20~17:30
活動場所	構内：東地区（3グループ）・西地区（4グループ）・電通大通・天神通・大学の周辺（正門・中門（2グループ）
参加者（計150名）	学友会執行委員会（昼間） 40名 学友会執行委員会（夜間主） 30名 生協学生委員会 23名 一般参加の学生 16名 職員 38名 生協職員 3名



本学は、7月28日（火）に渋谷区教育委員会との間で教育連携に関する協定を締結した。調印式は、渋谷区役所で行われ、梶谷誠学長と大高満範教育委員長が協定書に調印した。また、調印締結後には、桑原敏武区長も加わり、今後の連携活動について懇談が行われた。

今回の協定は、渋谷区が現在建設中の文化総合施設の中に「渋谷から未来のノーベル賞受賞者を出そう！」をコンセプトに平成22年秋に「こども科学センター(仮称)」の開設を予定しており、このセンターの開設及び運営支援と渋谷区立小・中学校の理数教育の充実支援を目的とした内容となっている。

本学では、少年少女発明クラブを開設するなどの実績があることから、これまでも社会連携センターが中心となって「こども科学センター(仮称)」の計画段階から協力してきており、また、教育委員会の事業である小・中学生技術センターへの講師派遣や渋谷区内の小学校と連携してのSPPの実施など、渋谷区とは既に連携関係にあったが、今回の協定締結によりさらに関係が強化され、理科大好き少年の育成とともに、児童、生徒の科学的思考やものづくりへの意欲を育てるためのプログラムの提供や楽しい実験方法の提供による教員に対する支援も行っていくこととしている。



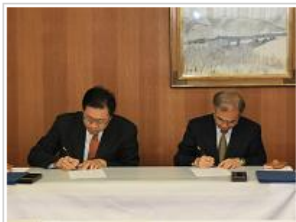
都立調布特別支援学校と教育連携協定を締結

2009.11.05

本学は、10月29日（木）に東京都立調布特別支援学校と教育連携に関する協定を締結しました。調印式は、本学で行われ、梶谷誠学長と兵馬孝周校長が協定書に調印しました。

調布特別支援学校とは隣接していたにもかかわらず、これまで連携がほとんどありませんでしたが、昨年度に調布特別支援学校が東京都から委託を受けてスタートした「外部の教育資源を活用するための仕組みづくり」モデル事業に、本学が協力したことがきっかけとなり、調布特別支援学校でのICT（情報通信技術）に関し本学教員と学生による支援や、本学を利用して調布特別支援学校の理解増進を図るための研修会を開催するなど、相互の連携を深めるための取組みを進めてきました。

本学では、社会連携センターが中心となって、これまでも地域貢献活動の一環として地域の小・中学生を対象とした理科教育支援活動等を展開してきていますが、今回の協定締結を通してさらに特別支援教育の面でも、エレクトロニクスを活用した教材（生活技能育成用教材）開発など、新たな貢献の可能性を探っていくこととしています。また、社会貢献の一環としてばかりでなく、学生教育の一環として連携活動を発展させたいと考えています。



大学を花でいっぱい - 花植え活動

2009.11.12

平成15年から大学内の花壇の整備、手入れ等を調布市のボランティアグループ「調布花・はな」にお願いし、環境美化を図ってきていますが、11月6日（金）に教職員・学生、特別支援学校中学部の生徒と教員の総勢55人ほどが参加して花植え作業を行いました。

三木社会連携センター長の挨拶のあと、花・はなグループ代表の原さんから「パンジーは根をほぐしてから、チューリップは周りのビニールをはがしてから球根の大きさの3倍の穴を掘ってそこに埋めるように」などの説明があり、その後、一緒になって自然とのふれあいを楽しみました。

今回植えたチューリップは、来春の卒業式、入学式の頃には立派な花を咲かせることになると思います。花植え作業は、夏と秋の年2回行われていますが、日頃から花壇の手入れをしていただいている同グループの皆さんの尽力により、四季を通じて可憐な花々が咲き、教職員ばかりでなく地域住民の方々にも目を楽しませてくれています。



シンポジオンでは、大学外のみなさん（近隣の企業、教育機関、教育関連組織）と共に、社会貢献について連携のありかたを探ってきました。小中学校や特別支援学校との連携を取り上げた昨年度に引き続いて、今年度は、高校との連携を探りました。高校と大学は関係が深いために、いろいろな連携があちこちでなされています。今回は、お手本となる実践礼を大学と高校から紹介していただきました。工学系の本学にとって、貴重なお話がうかがえました。

いきなり連携の話をする前に、もっと高所から広い視野にたつて理工教育を考える機会を用意しました。(独)科学技術振興機構の北澤宏一氏による「日本の世直しと科学技術」の講演です。「大学を競争的環境の下に置くという政策がもたらした現実」、「科学技術が日本の産業振興に寄与していないという現実」、「超伝導が世界を救う」など、北澤氏の巧みな語り口に引き込まれ、外の学園祭にも負けないほどに会場の雰囲気が高まりました。



第3回キャンパス美化活動を実施

2010.1.19

1月14日(木)の午後4時30分から1時間、生協学生委員会と社会連携センターの主催で第3回キャンパス美化活動を実施しました。

今回は、1月16日・17日に行われる大学入試センター試験で本学を訪れる受験生を気持ちよく迎え入れようと実施したものです。

実施に当たっては、前回の反省を踏まえて生協学生委員会担当委員と社会連携センター奥委員が綿密に打合せを行い、生協学生委員会が中心になって作成した実施計画に基づき、学生と職員が9つの合同チームを作り、キャンパス内でゴミ拾いや落ち葉掃きなどを行いました。

夕方のしかも寒波到来で厳しい寒さの中、多数の学生、職員に参加いただきました。

【活動の概要】

時間	1月14日(木) 16:30~17:30	
活動場所	構内：東地区(6グループ)・西地区(2グループ)・正門前歩道(1グループ)	
参加者(計96名)	生協学生委員会・一般参加の学生	48名
	職員	45名
	生協職員	3名

